

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立平尾小学校協議会

1 総括についての評価

当初計画に設定した「取組内容」を中心に教育活動を進め、学校アンケート（後期）の結果や子どもの様子から、安心・安全、学力向上、体力向上、教育環境の充実のそれぞれについて順調に進めることができたと評価された。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 79%以上にする。
(R6 経年 79%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(R6 (2-2) /2 0%)
- ① 本年度の校内調査（児童）の「学校に行くのは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上で維持する。
(R6 校内 86%)
- ② 本年度の校内調査（児童）の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
(R6 校内 86%)

年度目標に対して、全ての指標で目標レベルに達したといえる。不登校児童について家庭の都合で休みがちだが、元気に登校できる日が増え明るく学校生活を送ることができるようになっていたり、自らのペースで登校日の設定やオンライン学習等がすすめられるようになった。引き続き、児童の実態について共有し、教職員が連携して対応、関係諸機関との連携を継続して行う。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上(1)】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35 %以上にする。
(R6 経年 36. 2%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。

| | | | | | |
|----|-----------|----|----------|----------|----------|
| 達成 | (R6 経年全国比 | 国語 | 4 年 0.87 | 5 年 0.90 | 6 年 0.94 |
| | | | 4 年 0.94 | 5 年 0.84 | 6 年 0.93 |

- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。
(R6 経年 65. 2%)
- ① 校内調査（児童）の「学校行事や学習では自分の力をしっかりと出すことができている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
(R6 校内 91%)
- ② 校内調査（児童）の「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
(R6 校内 93%)

年度目標に対して、全ての指標で目標レベルに達したといえる。学力については、6 つの観点の内 4 つを向上させることができた。これまでの研究の成果を生かしながら、児童理解、教材研究、授業づくりの充実を図るという視点でカリキュラム・マネジメントを行う。学力向上に向けては家庭教育と学校教育の両面からの支えが必要であるため、家庭への働きかけも継続していく。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上(2)】

- ① 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上で維持する。
(R6 経年 73.1%)
- ② 校内調査（保護者）の「家庭では早寝 早起き 朝ごはんの習慣が身につくように努めている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上で維持する。
(R6 校内（保護者） 85.8%)
- ③ 校内調査（児童）の「手洗い・うがいをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上で維持する。
(R6 校内 90.2%)
- ④ 校内調査（児童）の「給食を残さないように食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上で維持する。
(R6 校内 91.8%)

年度目標に対して、全ての項目で目標を達成することができた。特に「手洗い・うがいをしている」に対して、肯定的回答が90%以上と高水準で、感染症の流行もなかった。保健委員会が年間を通して手洗い・うがい、ハンカチの携行を促す取り組みを行った成果である。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
※日別活用率 6月平均3.7割 → 1月平均6割越
(R6 2%)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95.2%以上にする。
(R6 95.2%)
- ① 校内調査において、児童一人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、35冊以上で維持する。
(R6 年度4冊)

年度目標に対して、学習者用端末の活用日数のみ指標を上回ることができなかつた。しかし、校内ICT週間の取り組みを続けることで、日別活用率が増加してきた。引き続き教職員の意識と技能の向上を目指す取り組み、研修を行う必要がある。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 学力向上に向けては家庭教育と学校教育の両面からの支えが必要であるため、以下の学校教育の工夫について継続した取り組みが承認されている。
- ① 安心・安全のために、登校時間は午前8時20分～30分（開門8時20分）
校時表を見直し、午後3時までに6時間目の学習が終了。
- ② 勤務時間に対応し、電話応対時間を午前8時20分～午後5時とする。
- ③ 適正な授業時数について見直し、ゆとりをもって児童に向き合うことができるようとする。
- ④ 時差勤務の推進。退勤可能な時は時休取得を進める。
- ⑤ 学校外でのトラブル（公園や習い事など）については、当事者の保護者・家庭での指導・解決をお願いしている。SNSにかかるトラブルも同様。
- 児童アンケート（後期）「学校に行くのは楽しい」結果が肯定的回答86%であったことや自己肯定感を高める人権教育の取り組みについて高く評価をされた。
- 学校協議会を課業時間に設定することで、学習参観や日々の学校生活の様子を知ることができるのでよい。